

伊集院保健所感染症情報

2023年第16週（令和5年4月17日～令和5年4月23日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症

定点医療機関【インフルエンザ5，小児科3，基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第13週	第14週	第15週	第16週	先週からの増減	第15週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	1.20	0.80	0.20	0.00	↓	0.83	↓
RSウイルス感染症	-	-	-	1.33	1.33	3.33	2.33	↓	4.26	↗
咽頭結膜熱	3	1	-	0.33	0.67	0.00	0.67	↗	0.43	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	0.67	0.33	2.33	1.00	↓	0.49	↗
感染性胃腸炎	20	12	-	2.00	0.33	3.67	1.33	↓	6.72	↗
水痘	2	1	1	0.33	0.00	0.00	0.33	↗	0.09	↗
手足口病	5	2	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.21	↗
伝染性紅斑	2	1	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	→
突発性発しん	-	-	-	0.33	0.33	0.00	0.33	↗	0.32	↗
ヘルパンギーナ	6	2	-	0.00	0.00	0.00	0.33	↗	0.36	↓
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.08	↗
基幹定点からの届出状況			該当なし							
インフルエンザ入院サーベイランス			該当なし							
全数報告（かっこ内は本年の累積数）			該当なし							
※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし， 注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし										

● TOPIC マダニに咬まれないように注意しましょう

春から秋は、マダニの活動が盛んな時期とされています。病原体を保有するマダニに咬まれることにより感染する病気（重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱など）を予防するため、マダニに咬まれないように注意しましょう。

●森林や草むら、藪などに入る場合には、肌の露出を少なくしましょう。

長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしましょう。

●虫除け剤も補助的に使用しましょう。

●マダニに咬まれていたら、医療機関（皮膚科）で除去、洗浄してもらいましょう。

無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがあります。

●マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けましょう。。

● 注意すべき感染症

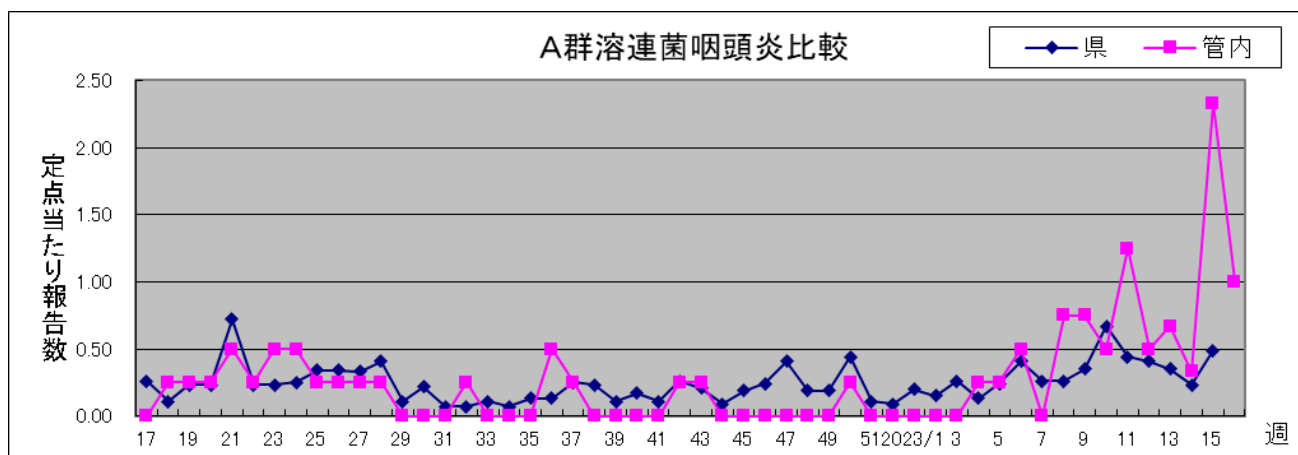
OA 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

今週の伊集院保健所管内におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、前週の7人（定点当たり2.33）から4人少ない3人（1.00）に減少しました。年齢別では、1歳・6歳・10～14歳（各1人）でした。

感染すると、2～5日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛まつ感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

予防には、患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。



ORS ウイルス感染症

今週の伊集院保健所管内におけるRSウイルス感染症の報告数は、前週の10人（定点当たり3.33）から3人少ない7人（2.33）に減少しました。年齢別では、1歳（5人）、6～11か月・3歳（各1人）でした。

RSウイルス感染症は、4～6日ほどの潜伏期間の後に、発熱、鼻汁など、かぜに似た症状が現れます。新生児や生後6か月以内の乳児や基礎疾患を有する小児等が感染すると重症化しやすい傾向があるので、注意が必要です。

感染経路は、「飛まつ感染」、「接触感染」です。感染者と直接、濃厚に接触した場合や、ウイルスの付着したおもちゃやコップ、ドアノブなどに触れたり、なめたりすることによってウイルスが眼や咽頭（のど）、鼻の粘膜に付着して感染します。

予防には、咳エチケットや子どもたちが日常に触れるおもちゃ等のこまめな消毒、流水・石けんによる手洗いかまたはアルコール製剤による手指衛生を励行しましょう。

